

# 付着生物ラーバ情報

## 親のユウレイボヤを減らすために 分散作業を早めに進めましょう

### 1 ラーバの出現状況

ラーバの調査地点は図1、出現数は表1、出現数の推移は図2、3のとおりです。

#### (1) ユウレイボヤ (通称: ハナ)

ラーバは10月1日の奥内沖と10月8日の野辺地沖でそれぞれ0.8個体/m<sup>3</sup>、10月2日に野辺地沖で3.1個体/m<sup>3</sup>、10月7日に久栗坂沖で0.6個体/m<sup>3</sup>見られました(表1、図2)。

#### (2) ムラサキイガイ (通称: カラスガイ、シュリ、マルゴ)

ラーバは10月1日に奥内沖で27.5個体/m<sup>3</sup>、久栗坂沖で2.2個体/m<sup>3</sup>、川内沖で14.1個体/m<sup>3</sup>、10月2日と10月8日に野辺地沖でそれぞれ3.9個体/m<sup>3</sup>、7.0個体/m<sup>3</sup>、10月6日に奥内沖で11.7個体/m<sup>3</sup>、10月7日に久栗坂沖で13.3個体/m<sup>3</sup>見られました(表1)。

#### (3) サンカクフジツボ (通称: アカガキ)

ラーバは10月1日に川内沖で2.3個体/m<sup>3</sup>、10月6日に奥内沖で0.8個体/m<sup>3</sup>、10月7日に久栗坂沖で0.6個体/m<sup>3</sup>見られました(表1、図3)。

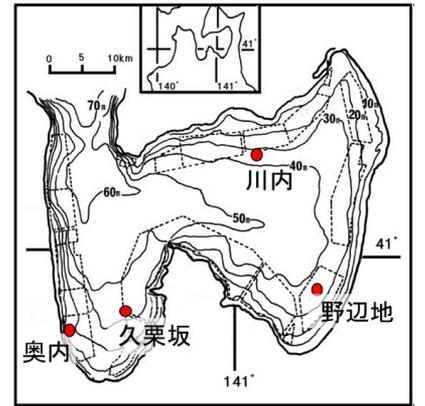


図1 付着生物ラーバの調査地点

表1 ラーバの出現状況

| 調査地点 | 調査月日    | 単位: 個体/m <sup>3</sup> |         |          |
|------|---------|-----------------------|---------|----------|
|      |         | ユウレイボヤ                | ムラサキイガイ | サンカクフジツボ |
| 奥内沖  | R6.10.1 | 0.8                   | 27.5    | 0.0      |
|      | R6.10.6 | 0.0                   | 11.7    | 0.8      |
| 久栗坂沖 | R6.10.1 | 0.0                   | 2.2     | 0.0      |
|      | R6.10.7 | 0.6                   | 13.3    | 0.6      |
| 野辺地沖 | R6.10.2 | 3.1                   | 3.9     | 0.0      |
|      | R6.10.8 | 0.8                   | 7.0     | 0.0      |
| 川内沖  | R6.10.1 | 0.0                   | 14.1    | 2.3      |

※久栗坂沖、川内沖は実験漁場内

### 2 今後の見込み

#### (1) ユウレイボヤ

現在、陸奥湾内の中層の水温は21℃前後となりました。

ユウレイボヤは水温20℃以下で産卵するので、今後、本格的なラーバの出現と付着が始まると思われる。

親のユウレイボヤがパールネットに付着しているので、親ボヤを減らすために分散作業を早めに進めましょう。

#### (2) ムラサキイガイ

冬に向けて出現数が増加する可能性があります、秋から冬生まれのラーバの付着はほとんどないことが分かっています。

#### (3) サンカクフジツボ

付着直前のラーバが7、8月に多数出現していることから、来春の耳吊り作業の効率が低下すると思われる。

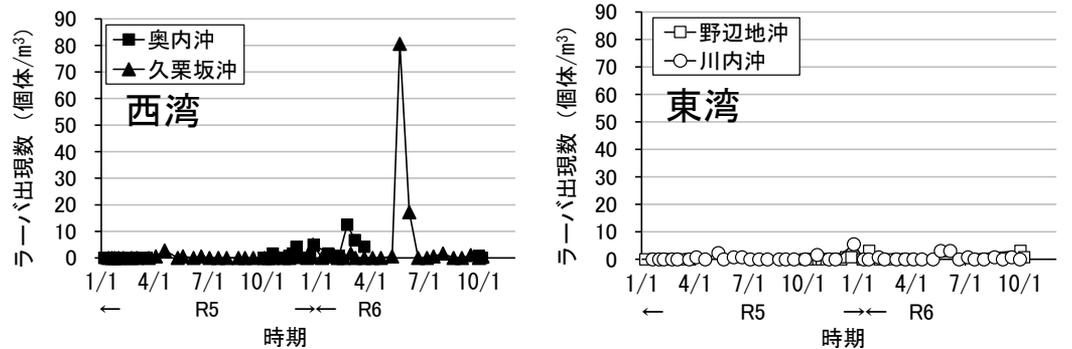


図2 ユウレイボヤラーバ出現数の推移(令和5年1月~令和6年10月)

・平成25年の観察開始から令和5年までの最大値: 西湾25個体/m<sup>3</sup>、東湾10個体/m<sup>3</sup>

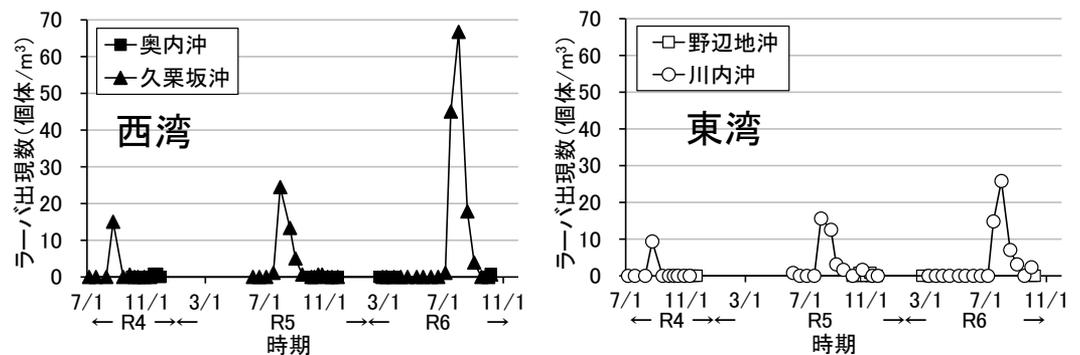


図3 サンカクフジツボラーバ出現数の推移(令和4年7月~令和6年10月)

・令和元年の観察開始から令和5年までの最大値: 西湾59個体/m<sup>3</sup>、東湾45個体/m<sup>3</sup>

